

3V チュニアへの旅

J13USA 島本 正敬



APDXC 2016 に参加してくれた KF5EY/3V8SS Ash の国、チュニア。2002 年に CQ WW SSB コンテストに参加した IH9P のパンテレリア島で、チュニアまで数十 km しか離れていないと聞いて、一度は行ってみたいと長年思っていた国がチュニアです。イスラム圏の国はこれまで数カ国訪れましたが、初めてのアラブ。政情が不安なりビアの隣ということもあり、旅のプランを立ててからも正直なところ少し不安がありました。それまでに訪れたアフリカの 7 カ国には最貧国と呼ばれる国もありましたが、平気だったのは DX ペディションが目的だったから。でも今回はそんなアフリカの様子を全く知らない XYL を連れての観光旅行ですから余計に心配もありました。

関空から最短でチュニアに向かうにはイスタンブール経由のトルコ航空が便利。でも、そのトルコ航空が関空便を 2017 年 1 月末で終了すると聞いて慌てて計画をした旅なのです。昨年イスタンブール空港で爆破事件があった上、年末近くになってイスタンブールの市内で IS 絡みの爆発騒ぎもあり、この旅を止めようかと直前になって XYL が言い出す始末。事故に遭う確率は宝くじに当たる程度と、いい加減な言い訳をして 1 月 5 日に関空を飛び立ちました。



世界の航空会社の中で就航国数が 106 と世界最高を誇るトルコ航空。駐機している機材の多さ、深夜を過ぎても離着陸回数が衰えない便の多さに驚かされるのがイスタンブール空港です。そんな巨大な航空会社も空港での爆発騒ぎ、ロシア軍用機の撃墜、イスタンブール市内での IS 絡みの爆破等が発生したお陰でイスタンブール空港でトランジットが必要なトルコ航空が敬遠されたのでしよう。深夜を過ぎてても多くの人が行きかっていたターミナル内が、かなり静かになったように思われました。そのイスタンブールからチュニアの首都チュニスへ離陸したのは午前 10 時前。3 時間程のフライトですが、2 時間の時差があるので午前 11 時の到着予定。着陸に向けて高度が下がりが始め IH9P のパンテレリア島の南側を通過すると間もなく窓の外にはチュニアの景色が広がります。

した。これまでのアフリカのように砂漠や荒地でもなく、ジャングルのようにありません。その景色はまるでヨーロッパなのです。視界に入って来たチュニスは小奇麗な都会の様相。予想していたチュニアのイメージと全く合わず驚きながらの着陸でした。

日本国籍と米国籍のふたりずれば、どちらもビザ不要で入国ができます。預け荷物が無いこともあって、あっという間に入国を完了。空港からホテルへ向かうタクシーでトラブルがあつてはと、空港からホテルへ送り届けてくれる人を Ash が手配してくれたと聞いてはいたのですが、どんな人かも判らず心配をしていますが、税関をでるなり「Mac?」との声。小柄なおじさんが迎えてくれました。彼の名は Halim。チュニスに住むチュニアの無線クラブのメンバーで、Ash に頼まれて空港からホテルまで届けてくれました。



3V8SS/KE5EY と彼の XYL

ここでチュニアの無線の話のひとつ。チュニアは町のどこを見ても自由な空気に包まれているのですが、無線になると昔の概念が払しょくされていないためか、治安維持に関わっているものとして扱われています。そのため、個人でアマチュア無線局を持つことは許されず、許可されているのはクラブ局だけです。クラブ局は公益的な場所にしか設置が認められないことから容易に開設することができません。Ash が頻繁に運用している 3V8SS は Sousse (スース) という町にあり、Sfax [スファックス] に住む Ash は無線をするだけのために 130km を旅しなければならぬのです。クラブ局で運用する資格は明確に定められている訳ではありません。Association des Radio Amateurs Tunisiens (ARAT と略) というチュニアの無線連盟があり、その会員となり SWL をしたり教育活動に参加したりして連盟で認められると無線局の運用が可能になるということです。その連盟の会長がまだ 33 歳の Ash なのです。

ホテルにチェックインを済ませて、先ず朝食をと街へ出ました。町を歩いてても全く心配をするようなこともありません。朝食はホテル近くのチュニア料理のレストランで済ませて、街を歩き回ったり、旧市街地で小さな店が沢山ある込み入った場所を見たり、コーヒーショップで休んだりしても、不安を感じさせるもの等一切ありません。それでも、価格の安さには驚きの連続でした。

2 日目

朝から Ash がホテルへ迎えに来てくれて、3 泊 4 日の Ash ツアーが始まりました。Ash の運転する車で先ず紀元前 8 世紀に建国され地中海の覇者となったカルタゴの遺跡へ向かいます。チュニスから数十分ほどの距離にあるカルタゴ周辺には長い歴史の遺跡が沢山あり、ガイドまで来て貰い見て回ったカルタゴ博物館は特に興味深く、旅の前にチュニアについて予習をしていなかった僕には、これから見て回るチュニアの理解に本当に役立ちました。フェニキア人の建国から、ローマ帝国、その後のサラセン帝国と、歴史の流れを聞いてチュニアの町で見かける人々の人種の多様さの答えを知ったような気がします。



チュニス周辺の観光を簡単に済ませ、チュニアのファーストフードとして皆に愛されているというラバビを食べに。渡されたどんぶりのような容器に少し硬めのパンをちぎって入れます。それが終われば、カウンターへ。そこへひよこ豆のスープをかけてマグロのフレーク、半熟玉子やスパイスを乗せたら、ぐしゃぐしゃにかき混ぜる。見ていてもそれほどおいしそうには見えないのに、食べてみたら大変美味でした。その後、別の店に移動して食後のお茶。どう見ても喫茶店。でも、日本の喫茶店にあるサービスが追加されたものだと思えて来たお客の注文で判りました。水たばこがメニューにあるのです。提供する水たばこを準備する部屋を見せて貰いましたが、香り別に多くの種類の水たばこがあるのです。Ash もたしなんだことがないという水たばこを試してみることにになりました。たばこに火を付けません。熱せられた石のようなものがたばこの入った容器の上に置かれ、吸った時だけ熱せられた空気がたばこ容器を通して来るのです。恐らく、その



空気が高温なので冷やすために水を通すように思いました。けむりはたばこのような強い味ではなく、イメージで言えば水で薄めた紅茶を飲むような感じです。ですから、楽しんでいる人達を見ると吸いながら長時間話をしたりしています。コーヒーのお代わりに、時折店の人が熱した石のようなものを交換に回って来るのです。水タバコ初体験を済ませると、車は一路 150km 離れた 3V8SS のある町 Sousse へ高速道路を走ります。

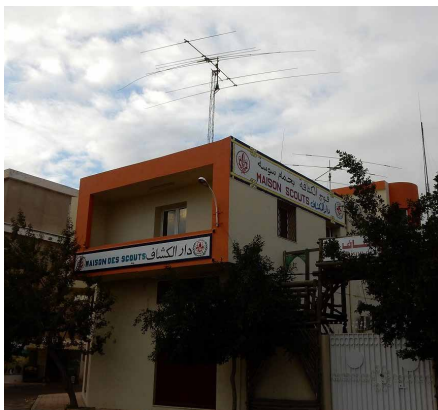


暗くなってから Sousse に到着するなり持参の携帯電話で使う SIM を購入するため電話屋さんへ。店構えも、対応順の番号券を発行する機械へ先ず向かうというのも、日本のドコモショップ等と同じ。データ SIM を購入して携帯電話でインターネットが移動中も使えるようになりました。1GB の SIM が 1000 円弱！ 海外で地元の SIM を携帯に入れて日本の 050 サービスを利用すれば、世界中どこにいても日本へ国内料金で電話ができます。ですから、海外に到着すると先ずデータ用の SIM を購入することが習慣になりました。

チュニジアではどこへ行ってもピザが人気。軽い夕食をにそのピザを試そうと入ったお店の装飾は全てオールドアメリカン。周りのお客の顔を見なければどこにいるか全く判りません。世界のどこに行っても同じになってきているようです。



3 日目



朝一番に 3V8SS を訪問しました。世界中どこでもボーイスカウトとガールスカウトと分かれているものと思っていましたが、チュニジアではスカウトと呼ばれ男女混合の団体となっています。そのスカウトの Sousse 支部の建物にスカウト活動の一部としてアマチュア無線局があるのです。前夜は土曜日ということではいろいろな活動が行われていたようですが、その朝は当番の子供たちが建物内の掃除をしていました。3 階建ての屋上にはトライバンド・ビーム等のアンテナ群が上がっています。3V8SS の部屋は 2 階にあり、大きくも



3V8SS

小さくない適当な広さです。リグは TS450S がメインでやはり小型の HF 機がバックアップ用のようにして置いてありました。アンテナはウクライナのハムが持ち込んだというロシア製のトライバンド八木が主で、7MHz は 2 本の垂直アンテナを利用した位相ビーム、80m と 160m のワイヤーアンテナに加えバックアップのトライバンド八木という構成です。免許取得の厳しさ同様、無線の輸入にも高額な税金が課せられるようです。この建物にはスカウトの集会やイベントに使える大きな部屋やいろいろな趣味の集まりにも利用できる部屋、屋外にもスカウトの訓練にも使えるような設備がある立派なものです。アラブの春で追い出された大統領の出身地 Sousse のスカウトということで、国内でもかなり優遇された設備と聞きました。3V8SS を運用するように勧められましたが、JA に開けるような時間でもなかったので見学をするだけとしました。403A が製造している 14/21/28MHz のトリプレクサーにバンド別 BPF を組み合わせることで、ひとつのトライバンドアンテナを複数の機器で同時にマルチバンド運用できるようにしています。許された電力が 100W ですからこれが可能となっているようです。チュニジアのハムには VHF や UHF は許可されていません。ですから、HF の機器だけが設備されています。輸入の困難さは無線機本体だけでなく、アンテナや同軸ケーブルにも及んでいるようで、一度手にしたものを修理しながら、騙し騙し使用しているという感じがどれを見ても伝わってきます。街中の電柱が四角の自立タワーの構造で、その廃棄品として出回ったものをビームアンテナのタワーとして利用されています。

続く

小さくない適当な広さです。リグは TS450S がメインでやはり小型の HF 機がバックアップ用のようにして置いてありました。アンテナはウクライナのハムが持ち込んだというロシア製のトライバンド八木が主で、7MHz は 2 本の垂直アンテナを利用した位相ビーム、80m と 160m のワイヤーアンテナに加えバックアップのトライバンド八木という構成です。免許取得の厳しさ同様、無線の輸入にも高額な税金が課せられるようです。この建物にはスカウトの集会やイベントに使える大きな部屋やいろいろな趣味の集まりにも利用できる部屋、屋外にもスカウトの訓練にも使えるような設備がある立派なものです。アラブの春で追い出された大統領の出身地 Sousse のスカウトということで、国内でもかなり優遇された設備と聞きました。3V8SS を運用するように勧められましたが、JA に開けるような時間でもなかったので見学をするだけとしました。403A が製造している 14/21/28MHz のトリプレクサーにバンド別 BPF を組み合わせることで、ひとつのトライバンドアンテナを複数の機器で同時にマルチバンド運用できるようにしています。許された電力が 100W ですからこれが可能となっているようです。チュニジアのハムには VHF や UHF は許可されていません。ですから、HF の機器だけが設備されています。輸入の困難さは無線機本体だけでなく、アンテナや同軸ケーブルにも及んでいるようで、一度手にしたものを修理しながら、騙し騙し使用しているという感じがどれを見ても伝わってきます。街中の電柱が四角の自立タワーの構造で、その廃棄品として出回ったものをビームアンテナのタワーとして利用されています。



JA 方向に向けたロシア製のトライバンド八木 1km 先は地中海



Newsletter

<http://ji3zag.net/html/nl.html>
会報を自由にダウンロードすることができます

Web: <http://ji3zag.net/>

Rollcall

Every Saturday 00:00UTC @21.370MHz

毎月のミーティング

at International House Osaka
毎月第 2 金曜日